

# 大会運営費 (組織委員会予算)の試算

## 〈大会運営費(組織委員会予算)で考慮するポイント〉

- 原則、税金は投入しない計画とします
- 不測の事態への対応のため、予算の10%程度の予備費を確保します
- 収入に見合った効率的な大会運営に努めます

大会の運営に要する経費は組織委員会が集めた収入でまかなうものとしており、その予算規模はおよそ2,000～2,200億円と試算しています。

収入はIOCの負担金やスポンサー収入、チケット売上収入等で構成され、原則、税金は投入されず、民間資金による収入でまかなう計画とします。

支出はセキュリティや輸送、宿泊に要する費用や観客席の一時的な増設といった仮設費用等を見込んでいます。さらに、東京2020大会における新型コロナウイルスへの対

応等、不測の事態への予備費として、予算全体の10%程度を見込んでいます。

札幌市はこれまで、3度の冬季アジア競技大会をはじめとする冬季競技の国際競技大会の開催に携わり、大規模スポーツイベントの運営ノウハウを蓄積してきました。その経験を存分に活用し、収入に見合った大会運営を行っていくことを基本として、今後も費用の削減に向けた検討を進めていきます。

### 大会の運営に要する経費

収入項目	金額
IOC負担金、TOPスポンサー収入	800億円
国内スポンサー収入	800～1,000億円
その他(チケット、ライセンス収入など)	400億円
<b>収入合計</b>	<b>2,000～2,200億円</b>

支出項目	金額
仮設費用(観客席の一時的な増設など)	600億円
その他運営費	1,200～1,400億円
予備費	200億円
<b>支出合計</b>	<b>2,000～2,200億円</b>